



付録

- 付録 A : サポートされる IMM 機能 / ポリシー (1 ページ)
- 付録 B : 移行設定 (6 ページ)
- 付録 C : プロキシ設定 (9 ページ)
- 付録 D : サンプル使用例 (11 ページ)
- 付録 E : フィードバックの送信 (13 ページ)
- 付録 F : テクニカル サポート (14 ページ)

付録 A : サポートされる IMM 機能 / ポリシー

このセクションでは、IMM 移行ツールでの変換がサポートされている機能のリストと、Cisco UCS Manager/Central と Intersight 間のポリシーマッピングを示します。



-
- (注) UCS Central 設定に VLAN/VSAN エイリアシングが含まれている場合、IMM 移行ツールは vNIC/vHBA の変換を実行するときに、エイリアスの 1 つを自動的に選択します。結果の構成を慎重に見直して、適切であることを確認してください。
-

UCS Manager/UCS Central 機能カ テゴリ	ソース UCS Manager/UCS Central の機能名	同等の IMM ポリシー
Admin	通信サービス *4	SNMP ポリシー
	構成	Intersight の組織
	Syslog *5	Syslog ポリシー
	タイムゾーン管理	NTPポリシー
	MACアドレステーブルエージング	スイッチ制御ポリシー
	VLAN ポート数の最適化	スイッチ制御ポリシー
	インバンド プロファイル VLAN グループ	イーサネット ネットワーク グループ ポリシー
	インバンド プロファイル ネットワーク	IMC アクセスポリシー
	インバンド プロファイル IP プール名	IMC アクセスポリシー
	FC アップリンク トランキング	VSAN ポリシー
	DNS *6	ネットワーク接続ポリシー

UCS Manager/UCS Central 機能カテゴリ	ソース UCS Manager/UCS Central の機能名	同等の IMM ポリシー
サーバーポリシーとシャーシポリシー	BIOS ポリシー	BIOS ポリシー
	起動ポリシー	ブートポリシー iSCSI スタティック ターゲット ポリシー
	ディスクグループポリシー	ストレージポリシー
	IPMI アクセス プロファイル	IPMI over LAN ポリシー
	iSCSI アダプタ ポリシー	iSCSI アダプタ ポリシー
	iSCSI ブート ポリシー	iSCSI ブート ポリシー
	KVM 管理ポリシー	仮想 KVM ポリシー
	ローカル ディスク 構成ポリシー *7	ストレージポリシー、SD カードポリシー
	QoS ポリシー	イーサネット QoS ポリシー / FC QoS ポリシー
	Serial over LAN ポリシー	Serial over LAN ポリシー
	サービス プロファイル	サーバプロファイル
	サービス プロファイル テンプレート *8	サーバプロファイル テンプレート
	保管プロファイル (Storage Profiles)	ストレージポリシー
	vMedia ポリシー	仮想メディア ポリシー
	vNIC / vHBA 配置ポリシー*9	LAN 接続ポリシー / SAN 接続ポリシー
	イーサネット アダプタ ポリシー	イーサネット アダプタ ポリシー
	フロー制御ポリシー	フロー制御ポリシー
	LACP ポリシー	リンク集約ポリシー
	LAN 接続ポリシー	LAN 接続ポリシー
	リンク プロトコル ポリシー	スイッチ制御ポリシー
	マルチキャスト ポリシー	マルチキャストポリシー
	ネットワーク制御ポリシー	イーサネット ネットワーク制御ポリシー
	ファイバチャネル アダプタ ポリシー	ファイバチャネル アダプタ ポリシー
	SAN 接続ポリシー	SAN 接続ポリシー

UCS Manager/UCS Central 機能カテゴリ	ソース UCS Manager/UCS Central の機能名	同等の IMM ポリシー
プール	IP プール	IPプール
	IQN サフィックス プール	IQNプール
	MAC プール	MAC プール
	WWNN プール	WWNN プール
	WWPN プール	WWPN プール
	サーバー プール *10	リソースプール

次の表に、IMM 移行ツールでの変換がサポートされている UCS Manager 機能を示します。

UCS Manager 機能カテゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
ファブリック構成 *1	アプライアンス VLAN	VLAN ポリシー
	QoS システム クラス	システム QoS ポリシー
	VLAN グループ	イーサネット ネットワーク グループ ポリシー
	VLAN *2	VLAN ポリシー
	VSAN	VSAN ポリシー
	ストレージ VSAN *10	VSAN ポリシー
ファブリック ポリシー *3	アプライアンスネットワーク制御ポリシー	イーサネット ネットワーク制御ポリシー
	UDLD リンク ポリシー	リンク制御ポリシー

UCS Manager 機能カテゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
ポート ロール	アプライアンス ポート	ポート ポリシー
	アプライアンス ポートチャンネル	ポート ポリシー
	FCoE アップリンク ポート	ポート ポリシー
	FCoE アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	LAN アップリンクポート	ポート ポリシー
	LAN アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	SAN ユニファイドポート	ポート ポリシー
	SAN アップリンクポート	ポート ポリシー
	SAN アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	サーバ ポート	ポート ポリシー
	FC ストレージポート *10	ポート ポリシー
	SANストレージポート *10	ポート ポリシー

*1 : 通常の VLAN と統合

*2 : PVLAN には対応していません。

*3 : 通常のネットワーク制御ポリシーと統合

*4 : セッション/HTTP 設定は、Intersight 設定で定義されます。Telnet/SSH 設定はサポートされていません

*5 : 最大 2 つのリモート宛先サーバーのみをサポート

*6 : UCS Manager では、[管理] > [通信管理] > [DNS 管理] の下にあります。

*7 : ストレージ ポリシーに置き換わる

*8 : テンプレートの更新のみ : 初期テンプレートのサポートはありません (ただし、複製は可能です)

*9 : 配置は、次のマッピングで PCIe スロットに静的にマッピングされます。

- vCon 1 : スロット MLOM
- vCon 2 : スロット PCIe1
- vCon 3 : スロット PCIe2
- vCon 4 : スロット PCIe3

この配置は、変換の実行後に必要に応じて手動で調整できます。

*10 - IMM Transition Tool リリース 1.0.2 以降でサポート



(注) エイリアスされた VLAN/VSAN のエイリアスを含むテーブルは、変換がサポートされていません。

付録 B : 移行設定

以下は、IMM 移行ツールの **[移行設定 (Transition Settings)]** ページにある変換オプションです。これらのオプションを設定/設定解除して、遷移の動作を制御できます。

1. ファブリック ポリシーの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。有効にすると、UCS ファブリック構成は同等の Intersight ポリシーに変換されます。
- 有効にすると、以下が変換されます。
 - VLAN / VLAN グループ / VSAN
 - FI ポートの構成
 - UCS ドメイン設定 (NTP、DNS、Syslog、SNMP、システム QoS、およびスイッチ制御ポリシー)



(注) ファブリック ポリシーの変換は、UCSM でのみサポートされています。

1. ファブリック ポリシー名

変換後のファブリック ポリシー (VLAN、VSAN、ポート ポリシー) の名前を示します。変換されたポリシーに **手動** の名前を指定するか、変換後に UCS ドメイン名を保持することを選択できます。

2. ファブリック ポリシーの対象組織名

ファブリック ポリシーが属する組織の名前を示します。組織の **手動** 名を指定するか、変換後に UCS ドメイン名を保持することを選択できます。

3. 常に個別の VLAN ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別の VLAN ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールでファブリック A と B に対して単一または個別の VLAN ポリシーを作成するかどうかを決定します。

4. 常に個別の VSAN ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別の VSAN ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールでファブリック A と B に対して単一または個別の VSAN ポリシーを作成するかどうかを決定します。

5. 常に個別のポート ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別のポート ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールは、ファブリック A と B に対して単一または個別のポート ポリシーを作成するかどうかを決定します。

2. サーバー ポリシーの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、選択したサーバー ポリシー/プール/プロファイル/テンプレートが同等の Intersight ポリシー/プール/プロファイル/テンプレートに変換されます

1. サービス プロファイルの変換

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- サービス プロファイルの変換が有効になっている場合、ユーザーは [プロファイル/テンプレート (Select Profiles/Templates)] 手順で変換するプロファイルを選択できます。
- 有効にすると、次の識別子が維持されない場合があります。
 - IP
 - MAC
 - IQN
 - UUID
 - WWN

2. グローバル サービス プロファイルの変換

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、選択したグローバルサービスプロファイルが同等の Intersight サーバー プロファイルに変換されます。



(注) この変換は UCSM にのみ適用されます。UCS Central テンプレートはデフォルトで変換されません。

3. ルート組織名

これは、UCS ルート組織がマップされる Intersight 組織の名前です。

4. ソース組織パスを Intersight 組織名に保持

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、UCS 組織「root/Org1/Org2」は、Intersight で「Org1_Org2」という名前になります。無効にすると、UCS 組織「root/Org1/Org2」の名前は「Org2」になります。



(注) オプションが無効になっている場合、「root/PROD/WINDOWS」および「root/NONPROD/WINDOWS」は、Intersight で同じ「WINDOWS」組織に変換されます。ポリシー/プール/プロファイル/テンプレート オブジェクトの名前が両方のソース UCS 組織で同じである場合、これにより競合が発生する可能性があります。

5. vNIC/vHBA オーダーに vCon 配置情報を使用

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、vNIC/vHBA は、ソース vCon に応じて異なる PCIe スロットに静的にマッピングされます。
- vCon any、1: 「PCIe MLOM」、vCon2: 「PCIe スロット 1」、vCon3: 「PCIe スロット 2」および vCon4: 「PCIe スロット 3」。
- 無効にすると、すべての vNIC/vHBA が PCIe スロット「MLOM」にマップされます。

6. 長い組織名 (>17 文字) を自動的に変更する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、17 文字を超える組織名が自動生成された名前に変更されます。これにより、組織名と QoS ポリシーを合わせた長さが 40 文字を超える場合のエラーを防ぎます。

3. 変換されたオブジェクトに自動的にタグを付ける

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、Intersight オブジェクトは「imm_transition_version': "2.0.1」、
「imm_transition_name': "transition_name」でタグ付けされます。

4. 既存の Intersight オブジェクトを上書きする

- このオプションは、デフォルトで無効です。

- 有効にすると、同じ名前とタイプのオブジェクトが組織に既に存在する場合、既存の Intersight オブジェクトは上書きされます。無効にすると、既存のオブジェクトは変更されません。

5. 変換されたポリシーのデフォルト パスワード

デフォルトのパスワードは、仮想メディア、iSCSI ブート、IPMI over LAN など変換されている UCS Manager/Central ポリシーで、既存のパスワードの代わりに使用されます。

6. iSCSI 相互チャップ認証のパスワード

このパスワードは、iSCSI ブートポリシーの相互 CHAP 認証に使用されます。変換されたポリシーのデフォルトパスワードとは異なる必要があります。

付録 C : プロキシ設定

IMM 移行ツールには、UCS デバイスおよび Intersight との接続を確立する際に、プロキシ設定を有効または無効にするオプションが用意されています。要件のシナリオに応じてプロキシ設定を変更できます。

シナリオ 1 : UCS デバイス接続のみのプロキシ設定

[UCS の追加 (Add UCS)] ページで、UCS ドメインに接続するためだけにプロキシ設定を有効にする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [設定 (Settings)] をクリックします。
2. [プロキシを有効にする (Enable Proxy)] を切り替えてオンにします。
3. [プロキシホスト名 (Proxy Hostname)] または [IP] を入力します
4. プロキシポート番号を入力します。
5. プロキシ設定で認証が必要な場合は、[認証 (Authentication)] を切り替えてオンにするか、手順 8 に進みます。
6. ユーザ名を入力します。
7. パスワードを入力します。
8. [保存 (Save)] をクリックします。
プロキシ設定が保存されます。
9. [Cisco Intersight マネージド モード移行ツールの操作](#)で説明されている手順に従って、準備状況レポートを生成します。
10. [設定 (Settings)] セクションに移動し、[プロキシを有効にする (Enable Proxy)] を切り替えてオフにします。
11. [Cisco Intersight マネージド モード移行ツールの操作](#)で説明されている手順に従って、変換されたオブジェクトを Intersight にプッシュします。

シナリオ 2: Intersight 接続のみのプロキシ設定

[Intersight へのプッシュ (Push to Intersight)] ページで、Intersight に接続するためののみプロキシ設定を有効にする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [設定 (Settings)] をクリックします。
2. [プロキシを有効にする (Enable Proxy)] を切り替えてオンにします。
3. [プロキシホスト名 (Proxy Hostname)] または [IP] を入力します
4. プロキシポート番号を入力します。
5. プロキシ設定で認証が必要な場合は、[認証 (Authentication)] を切り替えてオンにするか、手順 8 に進みます。
6. ユーザ名を入力します。
7. パスワードを入力します。
8. [保存 (Save)] をクリックします。
プロキシ設定が保存されます。
9. [次へ (Next)] をクリックします。
10. [Cisco Intersight マネージド モード移行ツールの操作](#) で説明されている手順に従って、変換されたオブジェクトを Intersight にプッシュします。
11. [設定 (Settings)] セクションに移動し、[プロキシを有効にする (Enable Proxy)] を切り替えてオフにします。

シナリオ 3 : UCS デバイスおよび Intersight 接続のプロキシ設定

IMM 移行ツールにログインしたら、次の手順を実行してプロキシ設定を有効にします。

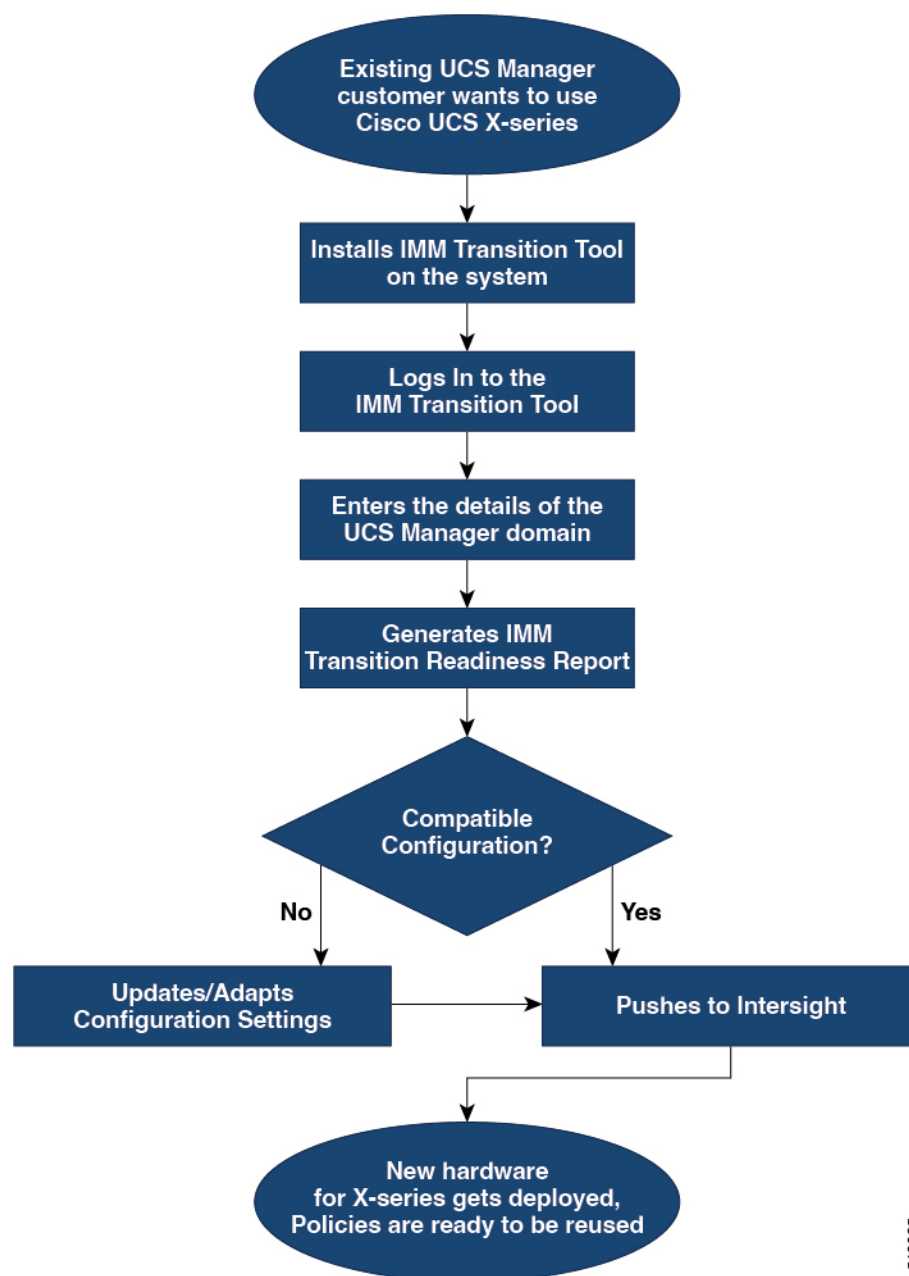
1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [設定 (Settings)] をクリックします。
2. [プロキシを有効にする (Enable Proxy)] を切り替えてオンにします。
3. [プロキシホスト名 (Proxy Hostname)] または [IP] を入力します
4. プロキシポート番号を入力します。
5. プロキシ設定で認証が必要な場合は、[認証 (Authentication)] を切り替えてオンにするか、手順 8 に進みます。
6. ユーザ名を入力します。
7. パスワードを入力します。
8. [保存 (Save)] をクリックします。
プロキシ設定が保存されます。

付録 D : サンプル使用例

UCS X シリーズの展開の拡張

ファブリック インターコネクトは UCS X シリーズをサポートする際、Intersight 管理モードで動作します。Cisco UCS Manager を使用していて、UCS X シリーズを使用する場合は、IMM に移行する必要があります。この移行

- 既存のサービスプロファイル テンプレートを Intersight に拡張します。
- ブート、BIOS、LAN/SAN 接続など、関連するサーバー ポリシーを自動的に変換します。
- VLAN / VSAN、ポート構成などのファブリック構成を変換します。



次の手順を実行して、既存の UCS Manager ドメイン オブジェクトを Intersight オブジェクトに変換します。

始める前に

システムは、[前提条件 \(Prerequisites\)](#) セクションに記載されている前提条件を満たしている必要があります。

ステップ 1 システムに Cisco IMM 移行ツールをインストールします。

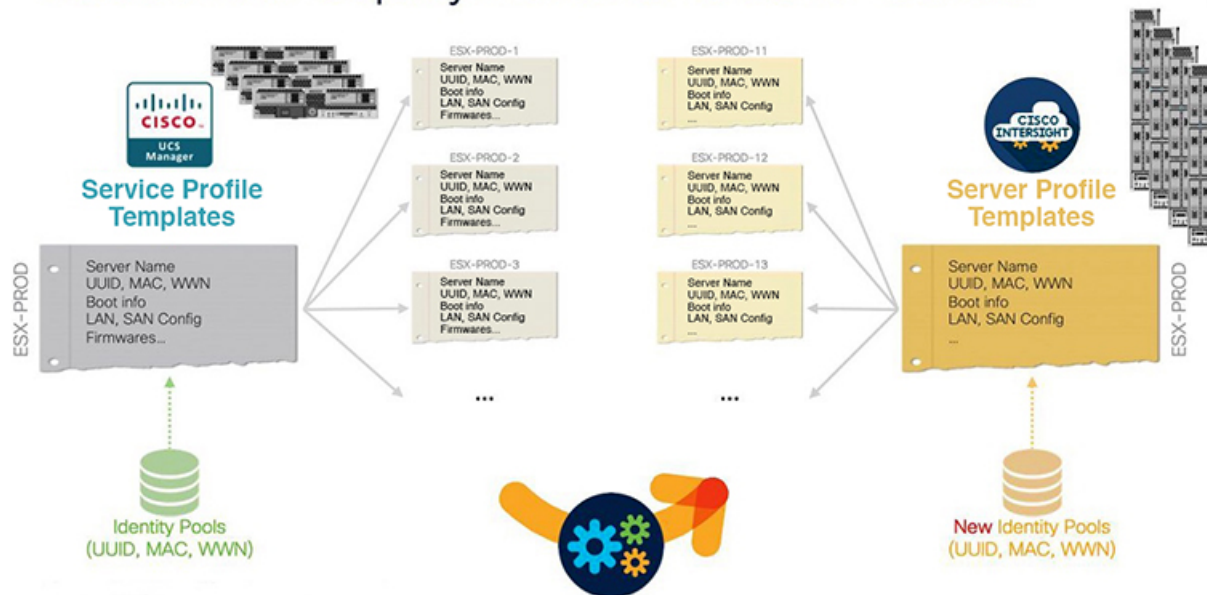
Cisco Intersight マネージドモード移行ツールのインストールに記載されているインストール手順に従います。

- ステップ2 IMM 移行ツールにログインします。
- ステップ3 UCS Manager ドメインの詳細を入力します。
- ステップ4 準備状況レポートを生成して、移行の互換性を確認します。
- ステップ5 a) 互換性がない場合は、構成設定を更新します。
b) 互換性がある場合は、変換された構成を Intersight にプッシュします。

次のタスク

新しいハードウェアが展開されます。UCS Manager ドメインのソフトウェア構成、および既存のポリシーを再利用する準備ができています。どこからでも Cisco UCS X シリーズシステムを監視し、サーバー全体でポリシーベースの管理を実行できるようになりました。

Accelerate deployments of UCS X-Series



この移行を実行する手順については、「[Cisco Intersight マネージドモード移行ツールの使用](#)」を参照してください。

付録 E : フィードバックの送信

右上隅にある [フィードバック (Feedback)] アイコンを使用して、ツールに関するフィードバックを提供するか、不足している機能に関する情報を提供します。

付録 F : テクニカル サポート

サポートが必要な場合は、ログファイルをテクニカル チームと共有できます。

クエリを送信するには、次の手順を実行します。

1. すべての遷移レコードを表示するリスト ビューに移動します。
2. テクニカル サポートが必要な移行レコードまでスクロールします。
3. レコードに対して [...] をクリックします。
4. [ログのダウンロード (Download Logs)] をクリックします。
5. ログファイルをコンピュータに保存します。
6. 保存したログファイルを電子メールに添付し、クエリ / フィードバックを含む電子メールを imm-transition-feedback@cisco.com グループに送信します。
<mailto:imm-transition-feedback@cisco.com>